

愛知県感染症情報

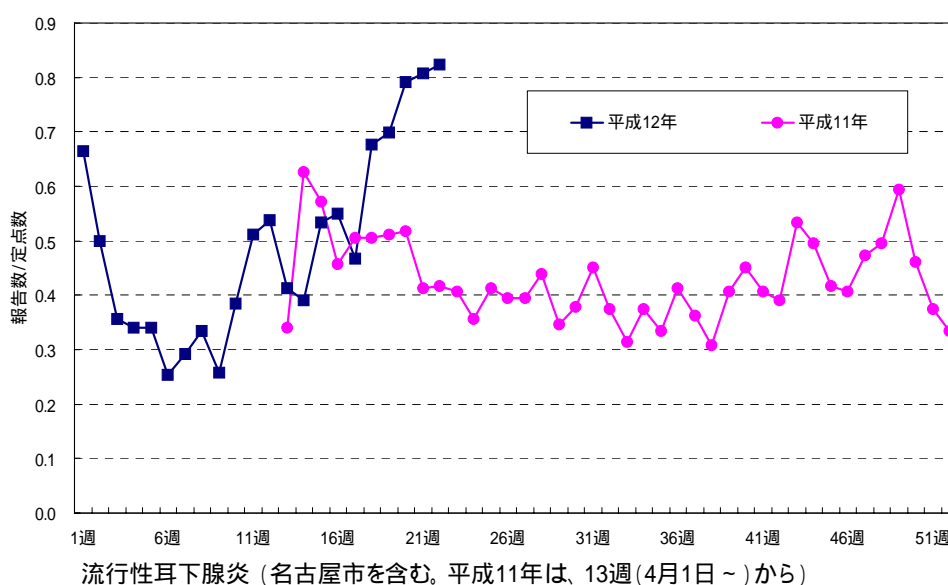
平成 12 年第 22 週（5 月第 5 週）

（コメント）

A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎、手足口病、伝染性紅斑及び突発性発疹に散発が見られます。

流行性耳下腺炎は流行しています。

ヘルパンギーナの報告数が増加中で、これから流行期に入っていくと予想されますので注意してください。



（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ 病原性大腸菌 O-1 3名（0歳女、4歳女、55歳女）、O-18 4名（3ヶ月女2名、2歳女、11歳女）、O-128 53歳男

マイコプラズマ肺炎 成人3名

溶連菌感染症 7歳男

（尾西市 城後小児科）

- ・ ムンプス（流行性耳下腺炎）がめだちました。

10ヶ月の男性MCLS（川崎病）あり。

（一宮市 あさのこどもクリニック）

- ・ 感染性胃腸炎2歳女 便培結果 サルモネラ 0-9群

（一宮市 後藤小児科）

- ・ 溶連菌感染症、水痘、流行性耳下腺炎多し。

（岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック）

- ・ A 群溶連菌感染症流行中です。ヘルパンギーナもみられるようになりました。

(江南市 みやぐちこどもクリニック)

- 尾張東部地区

- ・ 溶連菌感染症、突発性発疹、水痘流行中。
ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎散発。(いづれも) 兄弟発症例あり。

染性胃腸炎は減少しました。

(尾張旭市 佐伯小児科医院)

- ・ 水痘流行。
ヘルパンギーナが増え始めました。
サルモネラ腸炎 O-4 9 歳男。

(瀬戸市 津田こどもクリニック)

- ・ 発熱、頭痛、嘔吐あるも首の硬直(-) 2 日位で治療例散見。

(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)

- ・ 百日咳 2 例 (DPT 未接種者) ありました。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

- ・ 今週も咽頭結膜熱が流行しています。

(春日井市 かちがわ北病院)

- ・ 無菌性髄膜炎 1 名。麻疹あり。ウイルス性胃腸炎あり。

(小牧市 小牧市民病院小児科)

- ・ アデノウイルス(+)の下痢症が散見される。

(東海市 東海市民病院)

- ・ サルモネラ腸炎 O-7 2 歳男
ロタウイルス腸炎 8 ヶ月女

(東海市 小児科ハヤカワ医院)

- 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌 O-1 5 歳女

(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

- ・ 11 ヶ月男：百日咳は培養にて百日咳菌 (+)

(岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院)

- ・ 麻疹 14 歳男ワクチン接種者

(岡崎市 医療法人深田小児科)

- ・ カンピロバクター 2 名 (1 歳女、5 歳女)

病原性大腸菌 O-1 VT1・VT2(-) 5 歳男

(岡崎市 にいのみ小児科)

- ・ 病原性大腸菌 O-18 2歳男
病原性大腸菌 O-1 2歳女
ヘルパンギーナが大分増えてきました。
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ カンピロバクター 3歳男
病原性大腸菌 O-18 VT1・VT2(-) 12歳男
まだ水痘多し。
(幸田町 とみた小児科)
- ・ サルモネラ腸炎 13歳男
(刈谷市 まついこどもクリニック)
- ・ ムンプスの2例はワクチン接種歴有り
(西尾市 やすい小児科)
- 東三河地区
 - ・ 溶連菌感染症が増えています。
伝染性紅斑も増えています。
(豊橋市 大谷小児科)
 - ・ EB ウィルスがよく見られます。高熱に続いて入院するものや、発熱ではじめて来院するものといろいろです。
EB ウィルスは男性
EB ウィルス(疑)1歳女児は入院
(豊橋市 富田小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

細菌性赤痢患者1名。

岡崎保健所から報告の54歳男 5/27初診、5/29診定。菌型はゾンネ。

腸管出血性大腸菌保有者1名

瀬戸保健所から報告の32歳女 5/24初診、5/29診定。菌型は、O-157 VT1・VT2(+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

レジオネラ症患者患者1名。

梅毒患者1名。

第 19 週（5 月 8 日～5 月 14 日）の 4 類感染症の全国状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎の定点当たり報告数が例年の同時期よりかなり多く、過去 10 年間で最大の流行曲線を描いている。患者の年齢階級別で見ると、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、3 歳から 7 歳の小児が全体の約 7 割を占め、ピークは 4～6 歳にある。感染性胃腸炎は 7 歳以下の小児が全体の 72%を占め、ピークは 1 歳にある。水痘も例年の同時期に比べ、定点当たり報告数がかなり多く、石川県で定点当たり報告数 5.8、静岡県で 4.7、熊本県で 4.6、愛媛県で 4.4、沖縄県で 4.3、福井県と山口県で 4.2 となっている。患者の年齢階級別では、1～4 歳にピークがあり、この年齢階級で全体の 70%を占める。夏季の流行疾患では咽頭結膜熱に続き手足口病も報告数が徐々に増加し始めた。全国的にはまだ報告数は少ないが、熊本県で定点当たり報告数 4.1 など九州地方で患者の増加がみられる。麻疹は連休明け患者報告数が増加したため、例年の同時期より定点当たり報告数が多くなっている。大阪府ではさらに大きな流行となっており、千葉県、兵庫県、茨城県、香川県、埼玉県、栃木県、岡山県などでも患者報告数が多くなっている。流行性角結膜炎は茨城県、宮崎県、滋賀県、沖縄県、愛媛県などで定点当たり報告数が多くなっている。

（Infectious Diseases Weekly Report より抜粋）

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）